

## 平成30年度 ぼちぼちの会研修会報告

平成31年3月1日(金) 19:00～

本年度の研修会を臨床心理士の武部 愛子先生を講師にお招きして下記の要綱で実施しました。講演の後、講師の先生と質問・相談などを行い研修を深めました。武部先生のお話を聞くのは昨年度に続いて今回で6回目、その他の保護者の会の学習会を含めるとかなりの数になります。しかし、お話を聞くたびにその内容が広がっていくのを感じます。普段から直接生徒や保護者と接して指導をなされたり、各地での事例を積み重ねてこられている結果だと思います。

今回も先生の具体的な指導を仰ぎながら、単なる知識としてだけでなく具体的な対応法など多くのことを学ばせていただきました。

### 記

◎日時：平成31年3月1日(金) 19:00～

◎場所：福岡市立若久公民館(福岡市南区若久1丁目11-20)

◎講師：武部 愛子 先生(臨床心理士)

◎内容 ～思春期・不登校・特別支援教育～

・生徒の進路情報・発達段階と親の関わり・障がいの理解など

### 講師プロフィール

・臨床心理士 ・福岡こども短期大学 子ども教育学科 教授  
・福岡市スクールカウンセラー運営委員 ・太宰府市スクールカウンセラー  
・福岡県スクールアドバイザー・発達障がい児等教育継続支援事業に係る巡回相談 相談委員  
・学童保育協会 副理事長 ・博多学園高校スクールカウンセラー

### 講演 発達の課題を受け入れる親の対応

・子どもは思いもよらないことを考えている。親は子どもの考えていることがわからない。想像の付く人は集団の中で生きやすい。他の人と異なる発想をする人は生きづらい。

・言うとなぜかという経験から自分のポジションが分からなくなる。小学校中学年からは本人が他人と合わせていくのがつらいと感じるようになる。誰とでも共感できない中でストレスがたまる。特に同年代はむつかしく、大人とのやり取りがらるになる。相手が配慮してくれるので「話しても笑われない」経験を積む。

・親は裁判官ではないので、そのずれを修正しようとしな。オールOkで受け入れると思ひもかけない話が出てくる。それができれば家庭が受け入れる体制ができたということだ。

・①動揺しない。「えっ」と言わない。何が出てきても興味津々で受け入れる。

②大人にとっては当たり前でも子どもにとっては初めての体験なので話したい。

③学校に行くのが目的ではない。行かなくても毎日確実に成長している。

・学校に行きづらい子は能力のある子どもなので良かれと思う助言は十分自分でわかっている。わかっているできないことを指摘されるのはつらい。結局親はわかってくれないことになる。

・難しいことはやり取りしようと思わず「通りすがりに言う」。とりあえず種だけ蒔いて本人に考える余裕を与える。その場を立ち去る。

・いったことに責任を取らされるのはつらい。（言わされた感）

・提案する→考え悩む→決断する（大人が決めてやる）。

・勉強をするのもゲームをやめるのも自分で決めることが大事。

・強い球を投げれば強く帰ってくる。

・気を緩ませるようになるのに10年くらいはかかる。

### 質疑

・睡眠障害について。

基本早く起きるためには早く寝る。したがって起きている時間を大切にする。何時に寝ようと起きる時間を決める。ゲームにはまるふとは朝起きてする。ブルーライトは脳を起こす。

・特発性過眠症

本人の記憶がない。泥酔症みたいなもの。病院の医療的な支援。

・朝起きずゲームをするが日によってずれる。

眠りが浅い。母親だけでは難しい場合補助者を頼む。機嫌のいいときに伝えておく。機嫌の悪いときには頭に入らない。まずは起きる時間を決めて起こす。

・「宇宙語を話すようになるといい」の意味は？

わかってもらえ得る体験が少ないので集団がつらい。否定されるために話す子はいない。まずは受け止めて聞きましょう。

・家族の役割分担。兄弟の関係

父の役割。否定するのではなくその子どもの気持ちを大切にする。それぞれの役割がある。

・卒業式どうしよう

本人が選ぶこと。

